

2014年(平成26年)1月26日 日曜日

# 小中高生の知恵 商品に

## 大館で「県北キャリア甲子園」 企業・団体と真剣「商談」

小中学生や高校生が持つビジネスのアイデアと、民間企業・団体のノウハウを結び付けるマッチング事業「県北キャリア甲子園」が25日、大館市のプラザ杉の子で開かれた。地域活性化につなげる狙いで、県が初めて開いた。児童生徒が地場産品を使った加



企業や団体との連携を旨  
指し商談に臨む児童ら

工品の販売など、自校の活動成果や課題を発表。企業や団体と個別に「商談」し、デザイン、食品加工、流通など各分野で連携に向け話し合った。

県北部の11の小中学校、高校から計62人が参加。21の県内企業と、農産品の生産直売やイベント企画に取り組むNPO法人、観光協会など22団体が商談に応じた。各校がこれまでの取り組み

や課題について、持ち時間の10分で発表。能代市の特産品「檜山茶」の加工・販売に取り組む能代松陽高は、紅茶の商品化に向けた技術協力を要請。ほかの学校も、必要とする支援について訴えた。

1時間の「商談タイム」では、児童生徒が「新たな販路をつくりたい」「もっと人目を引くパッケージにしたい」などと熱心に提案。企業や団体の代表者は生産数や包装、広報の仕方などについて助言した。

エダマメの栽培・加工販売に取り組む大館市の成章小は、食品加工業者とドレッシング開発の商談が成立。6年

生の秋元哉汰君(12)は「いい経験ができ、予想以上の成果も得られた。今後の栽培は後輩に引き継ぐことになるが、頑張って新商品として形にしたい」と喜んだ。

商品開発コンサルタントやデザインなどを手掛ける「ノリット・ジャポン」(秋田市)の土門

綾子さん(35)は3校と商談。的な連携や支援ができるよう、各校と連絡を取り合いたい」と話した。商品や活動内容のPRプーを求めた。試食品を配ったり、製品の説明をするなどして活動の周知を図った。(嶋崎宏樹)